

問國郡舊事、古老答曰、古者自相模國足柄岳坂以東諸縣總稱我姫國○略

〔萬葉集三〕 雜歌○筑波岳丹比真人國人作歌一首并短歌
雞之鳴東國爾高山者左波爾雖有明神之貴山乃儕立乃見果石山跡神代從人之言嗣國見爲筑羽乃山矣冬木成時敷時跡不見而往者益而戀石見雪消爲山道尙矣名積叙吾來前二、

〔萬葉集九〕 挽歌詠勝鹿真間娘子歌一首并短歌
鷄鳴吾妻乃國爾古昔爾有家留事登至今不絕言來勝壯鹿乃真間乃手兒奈我○中略
〔萬葉集十二〕 古今相聞往來歌悲別歌○中略
氣緒爾吾念君者鷄鳴東方坂乎今日可越覽、

〔冠辭考六〕とりがなくあづま

〔萬葉集卷二〕 人麻鳥之鳴吾妻乃國之卷三に筑波山鷄之鳴東國爾卷二十に登利我奈久安豆麻乎能故波云々猶多こは鷄は夜のあか時になく故に明といひかけたる也いかにぞなれば古事記に倭建命還上幸時到足柄之坂本云云紀には確登立其坂三歎詔云阿豆麻波夜故號其國謂阿豆麻也といへりこの阿豆麻を景行紀には吾妻と書仁賢紀には吾夫を訓て阿我圖摩ともあれば阿豆麻の阿は阿賀を略きていふ也然れば鷄が鳴あと一語にかれる如くなれど實は吾てふもとの語によりて明といひかけたる也けり本語によりてつづけたりとみゆる類は前にも後にも舉たり且吾と明と清濁を嫌はぬこと既にいへる妹爾戀明すてふを吾能松原にいひかけ給へるが如し、

〔伊勢物語上〕 むかし男有けり京に有わびてあづまにいきけるにいせ東はあのはひの海づらをゆくに、なみのいとゑろくたつをみて○歌

〔古今和歌集八別〕 友の吾妻へまかりける時によゆる

良峯ひでをか